

## 編集後記

本書は、CAPNAの30周年記念事業の一環として作成しましたが、その原資は、ある篤志家の方からのご寄付によります。寄付のおかげで、潤沢な予算で本書を制作することができました。ご寄付いただいた方をはじめ、これまで様々なかたちでCAPNAを支えてくださった方々に、心よりお礼を申し上げます。

CAPNAの20周年の頃は予算練りが厳しく、記念行事も限られた予算で行ったと聞いています。今回は篤志に報いるため、レベルの高い論考集の作成を目指し、著名な先生方を含め、第一線で活躍されている多数の方に執筆を依頼しました。ご多忙な方ばかりで、なかにはCAPNAと縁がなかった方もいましたが、CAPNAのためならと、多くの方が快く執筆を引き受けてくださいました。そのおかげで、子ども虐待にかかわる幅広い問題を、高いレベルで網羅することができたと自負しております。著者のみなさまに、深く感謝をいたします。

私たち編集委員も、本書の制作を通じて、たくさん勉強させていただくことができました。また、出版していただいた、ほんの森出版、特に編集を担当された小林敏史様に、深く感謝をいたします。法律の原典や文献の詳細などについてまで、きちんと校正していただいたため、学術的にも自信を持てる本ができました。

子どもの虐待が社会問題として認識されるようになって、ずいぶん時が経ちますが、まだまだ毎日のように子ども虐待に関する問題を見聞します。少子化が進んで、子どもは社会の宝と考えるべき時代になっているのに、子どもたちをとりまく状況がよくなっているのかさえ、不透明です。編集にたずさわったものとして、本書が子ども虐待のない未来の実現の一助になることを、心より願います。

2025年10月

### CAPNA 30周年記念出版

『子ども虐待防止 未来への提言』編集委員

岩城正光 兼田智彦 小出砂恵子 忠平 守

吉川由紀 萬屋育子 渡邊佐知子 糸 和彦(代表)